

第3回ジオパーク下仁田協議会教育部会（報告）

日時：令和4年11月18日（金）午後3時45分～5時15分

場所：群馬県立下仁田高等学校 1F 会議室

所 属	氏 名	出欠	所 属	氏 名	出欠
下仁田自然学校	保 科 裕	出	下仁田ジオパークの会	高橋真理子	出
群馬県立下仁田高等学校	島田 具広	出	公民館係長	小金澤千穂	出
群馬県立下仁田高等学校	徳田 竜磨	出	社会教育主事	有賀 喜紀	出
下仁田小学校	大河原康成	出	下仁田町自然史館	赤 岡 明	出
下仁田中学校	榊原 秀幸	出	下仁田町自然史館	関谷 友彦	出

1 開 会

2 協議事項

1)教育部会の方針修正について

6年前に打ち出した教育部会の活動方針は、小学校、中学校で既に行われていた郷土学習プログラム「下仁田学習」に沿ったものでした。徐々にこのプログラムも変化してきているため、方針の修正が必要と考えて議論しました。

『現行案』

- ①下仁田学習をジオパーク活動に活かし、発展させる。
- ②下仁田学習を小中学校に限らず、高等学校社会教育に広げて活動する

『保科部会長修正案』

- ①地域素材を用いた学習をジオパーク活動に活かし、発展させる。
- ②地域素材を用いた学習を小中学校に限らず、高等学校社会教育に広げて活動する

↓

【最終的な教育部会の方針】（詳細は、別紙のとおり）

**『地域素材を用いた学習を小学校・中学校・高等学校・社会教育に活かし
ジオパーク活動を発展させる』**

（修正案）について出された意見は次のとおりです。

- ・社会教育への意義づけが弱い。
- ・教育部会の活動はジオパーク活動に活かすのか、子どもたちへの教育に活かすのか

が明確でないなどの意見をいただき、最終的な方針は下記の通りとなりました。

『地域素材を用いた学習を小学校・中学校・高等学校・社会教育に活かし
ジオパーク活動を発展させる』

2) 教科学習での地域資源の活用方法について

小学校、中学校の理科の授業の中で、ジオパークに関連する地域素材がどのように使えるかそれぞれ原案を出し、部会で検討しました。

出された意見は、次の通りです。

- ・ 小学校3年生 で扱うアサギマダラは、足が4本しかなく昆虫の代表として扱うのはあまりよろしくない。
- ・ 小学校3年生の「ものの重さ」は、同堆積の発泡スチロールと鉄ぐらいの差のある物質で比べるので、石の重さ比べは難易度が高い。
- ・ 小学校5年生の、川の上流、中流、下流はかぶら川より、青倉川のほうが、狭い範囲で見えるので、いいのではないか。

また、今回は理科の授業で使えるものの原案ができたので、今後、国語や社会でもこのような対応表を作成していくことになりました。また、このリストの活用の仕方についても、今後の専門部会の中で話し合っていくことになりました。

(中学校1年生は3学期末テスト後、理科の学習のまとめとして町内のジオサイトを見学する予定)

3 次回の部会開催について

令和5年1月26日(木) 15:00～